

はじめに

現在、小学校、中学校、高等学校では、在籍する子どもの多様な教育的ニーズに応えることができる学校づくりが求められています。平成 27 年 12 月の中央教育審議会答申「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」では、生徒指導上の課題や特別支援教育の充実への対応など、学校の抱える課題が複雑化・多様化していること、学校に求められる役割が拡大していること等が述べられています。

これまで、特別支援教育の領域の研究では、「特別支援教育の充実」という視点から、小学校・中学校等に在籍する個々の障害のある子どもの教育的ニーズに応える研究が数多く行われてきました。一方、学校づくりに焦点をあてた研究は、「学校経営」や「生徒指導」などの視点から、主に小学校・中学校等における教育の文脈で行われてきました。学校現場の実践レベルでは、現実的な課題として児童生徒の多様な教育的ニーズに対応するための試行錯誤が行われていますが、研究レベルでは、「多様な教育的ニーズ（特別支援教育のニーズ、それ以外のニーズを含む）のある子どもの在籍を前提として、すべての子どもに対応するために、学校全体でどのような仕組みづくりをするのか」に焦点をあてた研究は、日本ではほとんど見られませんでした。

そこで、平成 30 年度～令和元年度地域実践研究「多様な教育的ニーズに対応できる学校づくりに関する研究」では、各指定研究協力地域の学校づくりに関する課題解決の取組を支援するとともに、研究チームとしては、多様な教育的ニーズのある子どもが在籍していることを前提にした小学校・中学校・高等学校等の学校づくりの視点を整理し、教育現場における学校づくりのプロセスの支援に資する研究を行うことにしました。

研究一年目の平成 30 年度は、静岡県（長期）、奈良県（短期）、横須賀市（短期）の各指定研究協力地域の「学校づくり」に関する情報収集や課題解決を図りつつ、国内外の研究の情報、及び、国内における特徴ある学校づくりの実践事例を収集しました。研究二年目の令和元年度は、静岡県（長期）、横須賀市（短期）の各指定研究協力地域における取組をさらに展開するとともに、学校づくりの理論的背景を整理した上で、特徴ある学校づくりのプロセスを参考に「学校づくりデザインマップ」（試案）を作成しました。

本研究を進める過程で、「学校教育全体における特別支援教育の在り方」という根本的な問いへの気づきがありました。地域実践研究としての 2 年間の研究は本報告書をもってまとめとなりますが、本研究で扱ったテーマへの問いかけは今後も続いていきます。ご一読いただき、今後の研究につながる忌憚ないご意見をいただけると幸いです。

令和 2 年 3 月

地域実践研究「多様な教育的ニーズに対応できる学校づくりに関する研究」

研究代表者 齊藤由美子